

「視覚障害教育における iPad 活用」に関する授業等の略案

1. 授業の概要

授業等日 時間	2014 年 10 月 29 日 (水) 8 : 30～10 : 00		教室等 (学校名)	目 の 教 室 (本川小学校)	授業者	多田 満可
教科 (科目) 等 (学年)	自立活動 (小学 5 年)	単元 (教科書)	自立活動領域の指導 (弱視レンズ活用訓練) 教科補充的指導 (漢字学習、視写)			
本時の目的	① 漢字学習 リーダー線を意識しながら、とめ・はね・はらい、筆順に留意して漢字の練習をする。 ② 視写 言葉のまとまりを意識して、お手本のとおりに視写する。 ③ 遠用弱視レンズ活用訓練 黒板の短文を素早く読む (通過基準－1 文字 0.4 秒)。 ④ 近用弱視レンズ活用訓練 10pt の大きさに書かれた縦書きの文章を素早く読む (通過基準一秒) ⑤作図訓練 コンパスと近用弱視レンズを適切に使い、円を作図する。 ⑥ 学習状況を振り返ることで、自分のできたところ、難しかったところがわかる。					

2. 協力児童生徒情報

児童生徒記号	☐ 眼疾患 弱視 視神経萎縮 視野狭窄 中心暗点 ☐ 教育的視力検査の結果 遠距離視力 (5m) 両 0.05 近距離視力 (30cm) 両 0.05 最大視認力 0.1 (右 15cm)
--------	---

3. 授業の概要

	時間	内容	教材・教具	支援内容
導入	10	1. 学習の準備 めあての提示 連絡ノート提出 レンズなどの準備	単眼鏡 漢字学習プリント	・教室に入ったら自ら学習の準備を行うので、それを見守る。 ・0.4の指標を提示し、3mのところから見えるようピントを合わせる。 ・準備が終わったらあいさつをするよう声をかける。
		2. 宿題の確認		・教師が丸付けをする。 ・自分でよく書けたと思うものを後ろに掲示させる。

展 開	1 5	3. 漢字ドリル (5 枚) ・ iPad で漢字の筆順、読みを確認し練習する。 ・ 書いた字を見返す。	漢字ドリル 漢字見本 iPad	- 書きやすいようにカラーの漢字ドリル (右利き用) を使用する。 250 ポイントの大きさの漢字見本を見て、iPad (筆順辞典) に指書きする。筆順や読みを確認した後、何に注意して書くか口答で言わせる。 - 漢字ドリルに書いた字を振り返らせ、次につなげるように言葉をかける。 - 残りのマスは、家庭学習として書いてくるようにする (すべてのマスを埋めるのではなく、バランスの整った字が書けたと思ったら終わってよい)。
	2 0	4. 視写 ・ ひらがなの練習をする。 ・ 前回どうすれば効率よく視写できたか想起する。 ・ 自分の書いた字を読み返す。	iPad 文字練習帳 お手本 視写用プリント	- バランスの整いにくいひらがなを 3 字練習させる。 「言葉のまとまりごとに区切って覚えてから写す。」「お手本を見えやすいように折る。」などの前回発見したコツを想起させる。 - 視写したら、読み返しをさせる。
	5	休憩		
	1 5	5. 近用レンズ活用訓練 「速読」をする。	ストップウォッチ 記録用紙 文章プリント	10p の文章を書見台上に提示し、読み取りに要した時間を測定する。読み誤りは読み誤った時点で指導者が誤りを指摘し、正しく読み終えるまでの時間をデータとする。 - 目標タイムを伝え意欲を持たせる。 2 回読み終わったところで、内容について質問する。
	1 5	6. 作図訓練 ・ 指定した半径の円を作図する。 ・ 振り返りをする。	作図用プリント	- コンパスを使う際の注意点を想起させる。 - 作図したら近用レンズで確認して振り返りをする。
	1 8	7. 遠用レンズ活用訓練 「短文読み (7~10 文字)」	ストップウォッチ 記録用紙	- 黒板から 3 m の距離で行う。 - ピント合わせをさせる。 - 前回見つけたコツを想起させる。 「用意始め」の合図で板書された短文を読ませる。 - 目標タイムを伝え意欲を持たせる。

まとめ	2	8. 在籍学級での1週間、目の教室での今日の振り返りをする。		・レンズや iPad を使った場面について振り返り、発表させる。
		9. 終わりのあいさつをする。		

4. タブレット端末の利用状況（利用機材の内容と利用のねらい）

ハードウェア	機材名：iPad ねらい：漢字学習時の視覚補助具，情報補償機器
ソフトウェア	アプリ名：漢字筆順辞典 ねらい：手書き文字の字形の確認，読みの確認，筆順の確認，字形の改善点の確認 アプリ名：広辞苑 ねらい：シロツメクサの画像の確認

5. タブレット端末利用の効果（実際に利用して得られた効果）

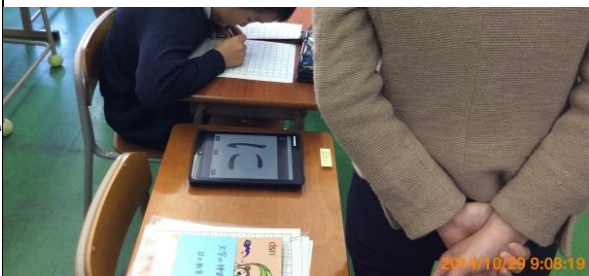
漢字筆順辞典では，読みや筆順を調べることが効率的に行えるようになったことはもちろんのこと，自ら書いた漢字とお手本の漢字を見比べることが容易に行えることから，上手に書くためのポイントを見出しやすくなった。

iPad を在籍校で利用する際，周囲の友だちの理解も得られ，視覚補助具として受け入れられている。また，彼が iPad を視覚補助具として利用することにより友だちが集まり，一緒に会話をしたり学習したりする機会が眼に見えて増えた。彼の自尊感情の形成などに大いに貢献することが予想される。

6. タブレット端末利用の課題（実際に利用して感じた課題）

固定ができ，拡大読書器のように扱えるとよい。

7. 授業経過記録

	時間	内容	活動の様子・感想・写真等
導入	10	1. 学習の準備 2. 宿題の確認	
	15	3. 漢字ドリル (5枚) ・ iPad で漢字の筆順、読みを確認し練習する。 ・ 書いた字を見返す。	 手書きの字形の確認, 読み・筆順の確認, より整った文字を書くためのポイントを手本の漢字と比較して確認の一連の目的で利用した。これらの内容を確認後, 紙上でドリル学習を行っていた。 【iPad 漢字筆順辞典】
	20	4. 視写 ・ ひらがなの練習をする。 ・ 前回どうすれば効率よく視写できたか想起する。 ・ 自分の書いた字を読み返す。	 「に」「た」の平仮名の字形の確認に利用した。 【iPad 漢字筆順辞典】
展開	5	休憩	 在籍校での iPad の活用の様子を教えてくれた。板書の撮影, 連絡黒板の撮影, 実験の様子撮影, 試験問題を撮影して大きくして問題を確認し, 拡大鏡を利用して紙に解答, 社会の資料集を撮影して拡大して確認など多彩な活用法を試みていた。

1 5	5. 近用レンズ活用訓練 「速読」をする。	 拡大鏡の練習。初めに漢字の読みの練習、次いで、文章の読みの練習を行い、2回音読後、内容に関する発問を行っていた。 シロツメクサの画像を iPad の広辞苑で確認した。 【iPad 広辞苑】 ※小学生セットには画像は載っていないようだ。
1 5	6. 作図訓練	時間の関係で未実施
1 8	7. 遠用レンズ活用訓練 「短文読み (7～10 文字)」	 短文読みを実施。 ※ピントのずれにも気づき、ピントを合わせながら、番号で示された文章を読んでいた。
まとめ	2 8. 在籍学級での1週間、目の教室での今日の振り返りをする。 9. 終わりのあいさつをする。	在籍校での視覚補助具の活用等について確認があった。 在籍校の担任より電卓アプリのインストールの依頼があったため、インストールを行った。